鹿児島地域振興局保健福祉環境部（伊集院保健所）発行

伊集院保健所感染症情報

2026年第14週（令和8年3月30日～令和8年4月5日）

【お問い合わせ先】　〒899-2501　鹿児島県日置市伊集院町下谷口 1960-1　鹿児島地域振興局保健福祉環境部（伊集院保健所）
TEL（099）273-2332 ／ FAX　（099）272-5674 ／　E-mail　kago-kenko-shippei@pref.kagoshima.lg.jp
鹿児島地域振興局　URL　http://www.pref.kagoshima.jp/ak01/chiiki/kagoshima/index.html

定点把握感染症

管内流行発生警報発令中：Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点医療機関【ARI２（インフルエンザ・COVID），小児科１，基幹定点１】

疾　患　名	警報基準値		注意報	伊集院保健所管内					県	
	開始	終息	基準値	第11週	第12週	第13週	第14週	先週からの増減	第13週	前週からの増減
ARI（急性呼吸器感染症）	－	－	－	70.50	72.00	63.00	59.00	↘	47.32	↘
インフルエンザ	30	10	10	**11.50**	**10.50**	8.50	5.00	↘	3.86	↘
COVID-19	－	－	－	0.00	1.00	0.50	0.00	↘	0.18	↘
咽頭結膜熱	3	1	－	0.00	1.00	1.00	1.00	→	1.48	↗
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	－	**8.00**	**15.00**	**5.00**	**6.00**	↗	3.06	↗
感染性胃腸炎	20	12	－	4.00	1.00	0.00	0.00	→	6.48	↘
水痘	2	1	1	**1.00**	0.00	**1.00**	0.00	↘	0.61	↗
手足口病	5	2	－	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.00	↘
伝染性紅斑	2	1	－	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.32	↗
突発性発しん	－	－	－	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.23	↘
ヘルパンギーナ	6	2	－	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.03	↗
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.00	→
ＲＳウイルス感染症	－	－	－	1.00	1.00	3.00	3.00	→	0.84	↘

※警報域　：太文字で赤色の塗りつぶし、　注意報域　：太文字で黄色の塗りつぶし

TOPIC　　麻しんに注意しましょう。

麻しん（はしか）について

１　症状

- 感染すると約 10 日後に発熱、咳、鼻汁、くしゃみ、結膜充血等の症状が現れます。２～３日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。
- 肺炎や中耳炎を合併しやすく、患者 1000 人に 1 人の割合で、脳炎が発症すると言われています。

２　感染経路

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播し、その感染力は非常に強いと言われています。

免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

また、発症した人が周囲に感染させる期間（感染可能期間）は、症状が出現する１日前から解熱後３日間まで（全経過を通じて発症がみられなかった場合、発疹出現後５日間まで）と言われています。

3　潜伏期間

約 10 日～12 日間

4　治療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

5　予防方法

- 麻しんは感染力が強く、空気感染もするので、手洗いやマスクのみでは予防できません。
- 予防接種が最も有効な予防策です。麻しん風しん混合ワクチン（MR ワクチン）は予防接種法で定期予防接種の対象（第１期：１歳児、第２期：小学生就学前の１年間）とされています。対象となる方は、接種期間に適切に予防接種を受けましょう。
- 急な全身性の発疹や発熱などの症状が現れたら、早めにかかりつけ医等を受診してください。
- 学校等は集団発生を起こしやすい場であることから、定期接種を受けていない小学生、中学生、高校生、大学生等について接種勧奨を行ってください。
- 職業上感染の拡大の影響のある医療関係施設、保育施設、学校等においては、職員等の予防接種の必要性について検討してください。

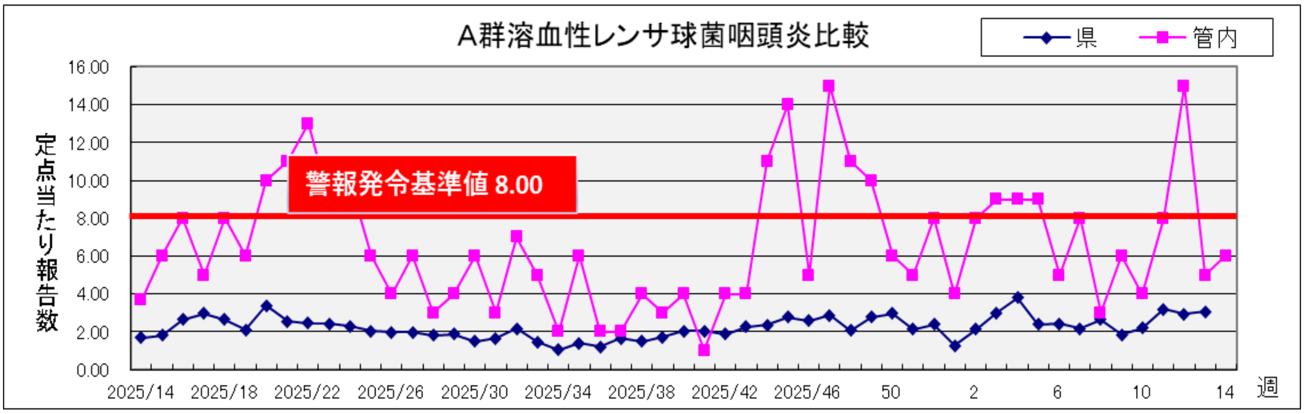
6　留意事項

麻しんを疑う症状があった場合は、早めにかかりつけ医等を受診してください。医療機関を受診する際は、必ず受診前に医療機関に連絡し、麻しんを疑う旨を伝えた後、医療機関の指示に従い受診してください。

また、受診の際は、周囲に感染を拡げないよう公共交通機関の利用は避けてください。

注意すべき感染症

・ Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎（流行発生警報発令中）



第 14 週の伊集院保健所管内におけるＡ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、６人でした。年齢別では、６歳・10～14 歳（各２人)、１歳・７歳（各１人）の報告でした。

感染すると、２～５日の潜伏期間を経て、突然の発熱や全身倦怠感、咽頭痛で発症し、舌が苺のように赤くザラザラとした状態になることもあります。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛沫感染」、あるいは、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」が主な感染経路です。

患者と濃厚接触を避け、手洗い、咳エチケットなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○学校における感染症による出席停止の状況３/30～４/５（出典：学校等欠席者・感染症情報システム）

今週は、出席停止の報告はありませんでした。